1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 4 月 4 日発行　SSKU　増刊通巻第 6396 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL:03-3598-3337

シャケ Zo くん

SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2019 年 4 月号 No.217

??なぜリボン??

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

2019 年 2 月 20 日、都民ホールにて、東京都精神保健福祉相談事業講演会が開かれた。埼玉県済生会なでしこメンタルクリック／東洋大学名誉教授である白石弘巳先生による「精神障害者と家族　それぞれが自立して支えあうために」というタイトルの講演である。ズームインして聞いてみよう。

東京都精神保健福祉相談事業講演会

他の人に頼むことができる力を

当事者と家族をめぐって

お話の序盤では、精神障がいがもたらす障がい（生活のしずらさ）について話された。

統合失調症などに由来する生活障害として、機能障害が見えにくいこと、精神機能が全般的に以前より少し低下すること、機能障害の程度が不安定であることを挙げられた。「もともと脳の中で起こっている出来事は、自覚されにくい。また、なぜ起こるのか、よく分からないことが多い。私たちの目にする『精神症状』の中には、脳内の出来事に対して二次的に生じたものがある。また、それらの一部は本人が意識して行なっている場合がある。これらを『甘え』『怠け』などととらえるのではなく、障がいがある状況で本人が良かれと思ってとっている行動と理解すべき」と話されていた。

精神障がい当事者の自立に向けた支援に関して、「多くの人は、『一人で頑張る』生活を続けているので、かえって自立が達成できていないようにみえる。」「必ずしも、自分で稼いで、人に頼らない生活をすることだけが自立ではない。」「むしろ大切なことは、できることは自ら行い、できないことは人に頼むことができる力を持つこと。」「どんなに重い状態でも自立は得られる。」と話されていた。

また、自立は相談する力によってもたらされ、「できることを自分で行ない、できないことは人に頼めることが自立しているということ。」「人に頼む事は、『弱さの表れ』ではなく、むしろ『強さの表れ』」「だれでも、相談できる力を持っているが、初めから気軽に相談できるものでない。」と話されていた。

終盤は精神障がい者家族の自立に向けた支援についてもお話しがあった。

精神障がいをもつ人と家族にも、高齢化の問題は避けて通れず、自立の問題は、「親亡きあと」の問題ではなく、誰にとっても、現在の問題であり、「親あるうちの自立」という言葉を使って説明される。

他にも、医師によっては、パプアニューギニアでは慢性疾患は無いという人もいて、症状の急性期が過ぎたら、戻って働いていること、戻る事のハードルが低いこと、日本では戻る事のハードルが高いことを挙げられていた。

そして、「風景化」という言葉を使われている。風景化とは、例えば退院した人が裸で歩き始めたとして、すぐ入院というのではなく、その風景に周りが慣れるということである。風景化と言う言葉は、今後の「共生社会」のあり方にフィットする言葉なのだと私は感じ、今後もその言葉を大切にしていきたいと思っている。　**(S.F)**

＜わくわくかん 4 月予定表＞

- ✧ 4 月 13 日（土）はたらっくす 16:00～　（自立訓練室）
- ✧ 4 月 20 日（土）共同連マラソントーク in 札幌 16:30～「私たちの働き方改革を考える」
- ✧ 4 月 22 日（月）現場協議会 16:30～　（スカイブリッジ）
- ✧ 4 月 23 日（火）家族懇談会 16:00～　（自立訓練室）

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 4 月 4 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6396 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

若竹煮

材料

たけのこ---------- ----小～中　一本
生わかめ ----------20ｇ～30ｇ
水----------250g
白だし---------- 50g
醤油----------小さじ 1

作り方

① あくを抜いてゆでたたけのこを食べやすい大きさに切る。
② わかめは塩を洗い 3 分くらい水に浸し、食べやすい大きさに切る。
③ 水、白だし、醤油を煮立たせ、たけのこを入れて落し蓋にして中火を 20 分煮る。
④ 火をとめてわかめを入れて自然冷却をして完成。

わかめも春が旬！

わかめは低カロリーで栄養豊富。わかめの栄養は甲状腺ホルモンの生成に欠かせない成分で髪や皮膚の健康を保つヨウ素を多く含んでいます。

旬のタケノコ　若竹煮

4 月に旬を迎えるタケノコは、タンパク質やカリウムを豊富に含んでいることで有名です。カリウムは身体の中の余計な塩分を排出する効果があり、高血圧予防、むくみ改善に役立ちます。反対にカリウムが不足すると疲れやすくなったり、自律神経症になりやすいそうです。春の旬のものはアクが強く癖のあるものばかりですが、身体にとても良い旬のものを積極的に食べましょう。

今回は、少し思い出話になるかもしれませんが…。私が、入職したころは現在の事務局長ともう一人若いスタッフと私という 3 人しかいない職場でした。そして、事業所も就労支援センターとグループホーム（定員 6 名）と私的な地域活動支援センター（当事者の方のボランティア活動、調理会や外出イベント等やオープンスペース）の 3 つしかありませんでした。

予算も少なく、1 年間でできる限りの助成金申請をして財源を確保していました。3 人しかいないので、助成金申請や担当する事業以外のことも自然に助け合いながらしていくしかありませんでした。

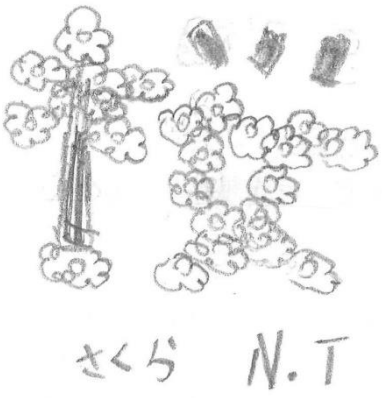
助成金の実績報告や書類も時間のない中仕上げるため、帰りは最終の電車になることも良くありました。助成金申請は、いろいろなアイディアを考えて話し合うということも、今思い出すと学ぶ機会にもなっていたかと思います。

今は、赤羽と十条と離れているためいろいろ話し合う機会や法人全体のことも把握していくことも難しい状況に感じます。互いに、忙しいと感じつつも事業は毎日進んでいるのですが、今考えると少ない人数での意思疎通のある仕事の現場の雰囲気が今はとても懐かしく感じています。

組織が大きくなっても、法人全体として同じ理念を大切にしつつ働く人の思いも大切にできる組織作りが出来たら良いと考えます。

桜も咲き、また忙しい新年度が始まりますが法人内のすべての事業所で働くことが楽しくまた、有効的な連携が取れるような年になることを願っています。　（C.N）

初期の少人数での頃に懐かしさ
意思疎通のある仕事の現場
理念や働く人の思いも大切に



1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 4 月 4 日発行　SSKU　増刊通巻第 6396 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

外出～新宿御苑

2 月 22 日､外出イベントで新宿御苑に行きました。
王子駅に出て、南北線後楽園で丸ノ内線新宿御苑前にて下車。散策路を通り、ロウバイを見ながら新宿門へ。ここで､「カフェはなのき」で昼食。私は福島応援カレーを食べました。なぜか全員カレーでしかも全部別！。
新宿門より入場。梅のピークは過ぎ、早咲きの寒桜の方に目が行ってしまいました。
昭和天皇が皇太子であった頃、御成婚パレードで御休みになられた旧料亭が、台湾の方が寄贈されただけに、日中合作の様式で興味深くありました。
草花で目立っていたのは、赤紫のジャノメエリカや真っ白なスイセン“ペーパーホワイト”などが咲き誇っていました。あと 1 本。巨木が真ん中からボッキリ折れていたのが痛々しかったです。(去年の強風のせいでしょうか)
快晴の空の元、広大な芝生の広場でリフレッシュ。休憩所で一休み。Ｓｔ.W は内藤唐辛子クレープにチャレンジ。『意外といける』と、激辛では無かった様です。
しばし散策ののち、新宿門から退場、新宿南口から埼京線に乗りそれぞれの駅で下車。解散となりました。

ミニ外出～装束稲荷神社

2 月 4 日(月)ミニ外出で、午後から王子 2 丁目の装束稲荷神社という、小さな神社に行ってきました。響から歩いて行きました。

区役所の前をまっすぐ行って、エレベーターで下がって音無親水公園から北とぴあの前に出て、ほりぶんの方向に行き、小さな道をうねっと入ったところにあります。小さな神社ですが謂れがあって、王子稲荷神社に行く前に狐さんが装束を改めるために、この名前なんだそうです。

Ｋさんを送る会

２月 12 日火曜日　スタッフＫさんが産休に入るため、少しの間お別れとなるので、イベントを行いました。Ｋさんのリクエストで、クレープを焼き、他にタピオカジュース、ポテト、チキンナゲットを用意しました。手分けして午前中に仕上げ、午後少し早目にハンドベルの準備。
隣りのリボーンの方々も居合わせた皆の前で演奏。
よろこびの歌、大きな古時計、上を向いて歩こうの３曲でしたが、何とか無事終了。
その後用意したクレープ等をいただきました。
クレープはフルーツ、生クリーム、チョコクリームを入れて一人一人巻いて食べたのですが、中身が多すぎて食べるのに苦労しました。
最後に一人一人お別れの言葉を送り、サプライズの寄せ書きを手渡しました。
Ｋさん、元気な赤ちゃんを産んで下さい。

卒業にあたって

私（M）は 2 月末で卒業しました。今振り返ると､様々なことが思い出されます。
リズム体操､スポーツ、ＳＳＴ、ｅｔｃ…たくさんのプログラムを経験しました。
また、北精連のイベントで発表した歌やダンスで２年連続で優勝したこともありました。
仲間の卒業、新メンバーの入所なども、悲しんだり、ドキドキしたりもしてきました。
今現在の私がいるのは、スタッフの皆さん、ＯＢ・ＯＧ、現在のメンバーのおかげです。今後、私はリボーンプロジェクトに行きます。これもまた楽しみの１つです。
１歩１歩焦らずに頑張って行きたいと思います。
（M．O）

1998年10月9日 第三種郵便物認可 （毎月3回8の日発行）
2019年4月4日発行 SSKU 増刊通巻第 6396号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032 東京都北区中十条1－2－18
北区障害者福祉センター4F Tel：03-5963-6888

コミュニケーショントレーニング
響＆リボーン 初の合同研修

今月最初の研修プログラムは、ボランティア響会と合同で「コミュニケーショントレーニング」を実施しました。グループに分かれ、あるお題の正解を導き出すというゲームに取り組んでいただきました。

このゲームでは、まず各人にお題に関する情報が書かれた紙が配られます。その情報を口頭で伝えあい、つなぎ合わせていくと正解が出せるようになっています。この日のお題は『ある場所からある場所までの道のりを導きだし、地図として書き表す』というものでした。

なかなか正解が導きだせず皆さん苦戦されていましたが、途中でスタッフからヒントをお伝えすると、そこから情報がつながり始め正解へとたどり着くグループが出てきました。 お互いの情報を出し合うだけでなく、推理したり、紙に書きだしたり、わかりやすくまとめたりと、どのグループにも自然と助け合う雰囲気がうまれ、とても活発なコミュニケーションが発生していました。普段コミュニケーションに苦手意識を持たれている方も、正解を出すために一生懸命自分から意見を述べられていました。今後もこのような機会を利用して、色々な方とコミュニケーションを取る体験を重ねていただけたらと思います。

＜感想＞

・自然とまとめ役の方など決まり、皆の情報を力をあわせてまとめてゆき、正解に導けてスッキリしました。

・地図作り疲れたけど楽しかった。ゲームに負けたくない思いが強すぎてずっと仕切っていた。

・自分の持っている情報を言うことはできましたが、「こうしたほうがいい」というような意見などは、自信がなく、あまり言うことができませんでした。もっと積極的になれるようがんばりたいです。あと、地図が苦手なので、それも克服したいと思いました。

・私は地図が読めないので、ヒントを与えられてもなかなか脳内で情報をまとめられませんでした。他のメンバーに任せっきりでしたが、コミュニケーションをとる事が大切なので、話していくうちに仲間意識が高まったのは良かったと思います。

障がい当事者の力

会場設営など準備作業

東京都精神保健福祉相談事業講演会（略称：都民講演会）が2月20日に行われました。この講演会は2008年度から行われており、毎年、多くの精神障がい当事者の方の力によって成り立っております。リボーンプロジェクトも年末から資料や会場設営などに関する準備作業に入っています。チラシの印刷やレジュメの製本。各所への封入・発送の作業。当日使用する横断幕・垂幕・案内などの作成。さらに、会場の下見にも行き、当日は受付係やお客様の案内係など、ホールスタッフとして働きます。講演が終わった後も、アンケート集計や講演の文字起し、そして講演録の印刷・製本など、一連の作業に最初から最後まで携わっております。

当事者の方の中には、対人関係に不安を覚える方も少なくありません。けれども、受付係として、お客様へのご挨拶や記帳の案内、資料の配布など、その役割をしっかりと果たしております。とかく、障がい者というと、できないことばかりに視点が集中しますが、多少の配慮でできる事もたくさんあります。

逆に自分の可能性を広げるため、一生懸命に自らの課題と向き合っている方もおられます。都民講演会は講演を聴きにいらっしゃる方のためだけでなく、主催する我々にとっても貴重な経験の場となっております。そして、本年度の都民講演会も多くの方の尽力により、無事に終える事ができました。 （H.Y）

1998年10月9日　第三種郵便物認可　（毎月3回8の日発行）
2019年4月4日発行　SSKU　増刊通巻第6396号

ズームイン

就労支援センター北わくわくかん「交流会」のこと

話し合いで関係性を作る場として

皆さんこんにちは、就労支援センター北　わくわくかんのスタッフ S です。2 月号の就労支援センター北わくわくかんの「就業中」の人に聞くに続き、今回は「交流会」についてお話をさせていただきます。

就労支援センター北では普段、求職活動をしている方、現在就労をされており職場での不安を抱える方々のサポートをするため相談支援業務を行っています。基本的には電話での相談支援や、個別面談を中心に支援を行っているため、利用者同士が話す機会はなかなかありません。そんな中現在就労をしている、していないに関わらず話し合いで関係性を作る場として 2017 年 5 月にスタートしました。

月１回センターや野外で

どんな活動を行ってきたか

交流会では、就労支援センターを利用されている方同士の交流、外出機会の確保、余暇活動の場として活用していただくことが目的です。毎月１回センターに集まっていただき、室内活動は各々の近況報告とアナログゲームを使ったプログラムを、野外活動では旧古河庭園やカラオケ、美術館、鉄道博物館見学など、主に利用者の方々のリクエストに基づいた場所に外出するプログラムを行っています。利用されている方々には就労継続に通っている方や就活中の方、現在働き始めて数年経つ方など、経歴は様々。年齢層は主に 30 代後半から 50 代までと幅広い年代の方々、それぞれの悩みを打ち明け、自分はこうだったなどなど、話題を共有することで現状は違えど同じ仲間として相談し合っています。

参加者の方々の声

参加者の方々に普段お休みの日はどうやって過ごしていますか、お伺いすると「土日はボーっとしている」「何をしたらいいか分からない」とおっしゃる方も少なくないです。

室内ではアナログゲームを用いたプログラムを行っているため、「普段このようにゲームをみんなで遊ぶ機会はあまりないので参加して楽しかったです」、「私だけではゲームをすることはなかったですが、もっと遊んでみたい」との感想をいただくことも多く、また、外出のプログラムでは旧古河庭園に行った際、「１人だったら近すぎて行かなかった」、「たまには外出するのもいいね」と言っていただくことも。普段の生活の疲れを仲間と過ごすことで癒す一面も持ち合わせています。また、相談支援の場ではなく余暇活動の一環として行っているため、相談支援ではなかなか聞き出すことのできない普段の生活についても話すことが多く、和気あいあいとそれぞれの生活、関心事について話しています。

現場からの報告(20)

施設調査の縁で入職

私は、わくわくかんで働いて１年になります。私は、大学１年生の秋季の授業で、施設調査をしました。「高齢者」「児童」「障害者」の３つから１つを選び、その方たちを支援している機関の調査を行うというものでした。私は、迷わず「障害者」を選びました。しかし、「障害者」を選んだのは、自分１人だけでした。

その授業は、社会福祉士や精神保健福祉士を志す人たちが受ける授業だったので、非常に驚きました。何とか人を集め、訪問した施設が、わくわくかんでした。職員の方からお話を聞き、1 人のスタッフが数十人～数百人の担当をしている、という福祉施設の現状を知りました。「そんなに担当しているんですか！」と私が驚きながら聞き返すと、「はい、そうですね」と職員の方は答えました。お話の内容にも驚きましたが、その内容を、淡々と当然のことのように話す職員の方にも驚きました。

施設調査を終え、授業で発表をするための資料を作成している時に、「福祉施設の現状はこうなのか」「自分は、知識も経験もないから、もっと勉強をしよう」と思ったのを、今でも覚えています。

(K .K)

1998年10月9日第三種郵便物認可　　（毎月3回8の日発行）
2019年4月4日発行　　SSKU　　増刊通巻第6396号

雑草魂（たんぽぽ号）が発行！～当事者の会「はるじおん」～

・「はるじおん」とは

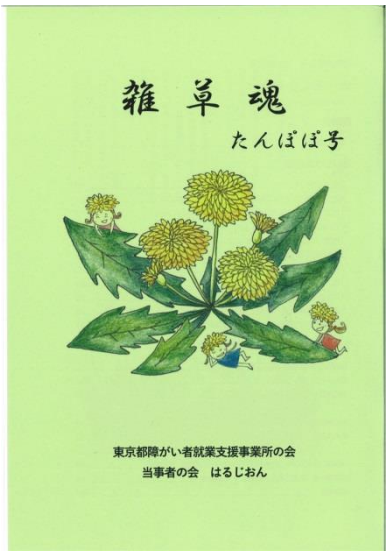
当事者の会「はるじおん」は、精神に障がいのある人等が「働くこと」をテーマに参集し、働いている人・働きたい人に必要な情報を得、お互いが学び合い、励まし合い、意見が言える場です。毎月第３土曜に集まりお茶やお菓子をいただきながら、事前に決めておいたテーマについて話し合ったり、発行している冊子『雑草魂（ざっそうだましい）』に関する様々な活動を行ったりしています。

・「雑草魂」とは

冊子「雑草魂」は、障がい当事者が自身について発信することで仲間へのエールになるようにとの願いから発行しています。また、障がいを持たない方にも、精神障がいについて正しい知識を持ち、関心を持っていただくきっかけになると考えています。およそ年２回のペースで発行し、昨年までに通巻第７号まで発行してきました。

・最新号「たんぽぽ号」について

３月16日に、最新号「たんぽぽ号」を発行しました！今回も、恒例の座談会や詩、エッセー、イラスト、体験談など盛りだくさんの内容です。春は出会いと別れの季節であり、またもうすぐ「平成」が終わり新しい時代を迎えるということで、今号はいつもより少し切ない雰囲気の作品が多いように感じます。もちろん楽しいお話や、未来への希望を感じさせる作品もあります！ふと目に付いたページを読むもよし、じっくりと味わうもよし、とても読み応えのあるものになりました。ぜひ、お手にとっていただけたらと思います。



１冊250円で販売しておりますので、購入をご希望の方はメールにてお問合せください（zassoudamashii2016@gmail.com）。

共同連次世代交流研修会
「お金のこと命のこと」でワイワイ！

共同連次世代交流研修会が3月16日から2日間、大阪箕面市のらいとぴあ21で開かれた。「共に働く生きるだけでもええけどもう少し深めてみいへん？お金のこと命のこと」が多角的にとりあげられた その盛りだくさんの中からパネルディスカッションの「共に創る　働き暮らす」にズームインしてみた。

河内長野市の共働事業所かすみ荘の林真理子さんは、重度でも収入を得たい当事者の思いとそれに共感する人々がつくったB型事業所で、『街の中の小商い』と胸を張った。手帳を持つ20人と持たない26人、22歳から86歳までがシフトを組んで、リサイクルショップ、リネン工場、内職、手作り製品、ロードトレイン、ヤギの世話、居宅介護、移動支援、相談支援などで事業高は4800万円。時給は672円。「失敗する自由がある」として挑んだ積み重ねの結果は大阪府B型800事業所の7番目の高さ。

大東市の一般社団法人フロンティアの井上明博さんは、青い芝の会の森修さんの意思を引き継いでの活動から紹介した。30数年前、母子心中事件をきっかけに、障がい者が町であたり前に暮らせるために、当事者、介護グループ「解放の家」、労働組合、部落解放同盟のネットワークが「24時間公的介護」を求めて生まれたこと、「生きてることが労働や！」の重度の知的障がい児の立場に立ってきたこと、20年前、措置から契約へのNPO法の移行に伴って、現在では解放の家は居場所、道草は作業―工賃の場、相談は障がい者の諸課題を集約、クレヨン・リンクはNPO化し地域活動センター取得を目指したと語り、共同連の「共に働く」には至っていないと謙遜して結んだ。

滋賀県社会的事業所に認定されている企業組合ねっこの輪の鎌田晴義さんは、クモ膜下出血で生死をさまよい、障害者手帳を取り求職活動を経てプリに入った。自閉症・発達・ホームレス等18人の仲間で市の施設清掃や公園の公衆トイレなどを担当。仕事ぶりについて、利用者から「ありがとう」と声をかけられるという。こうした社会的事業所に高卒や20歳代の人が入ってくるようにしたいと語った。

箕面市障害者事業所と豊能障害者労働センターの取組みを語ったのは新居良さん。チラシには「障害者が経営を担い、自立と市民事業をすすめる」とある。それは、福祉的就労の場合、障害者は工賃と呼ばれ、支援員の健常者の賃金には明確な格差があるが、箕面市の障害者事業所制度では、障害者の給料と援助者の給料は助成金と事業収益の配分変えによって対等という画期的な運営が行われている。

関西の事業と活動は、その当初の理念や価値をしっかりと抑えながら国の制度と地方の制度を活用、主体的に工夫していることがよく見えた元気な議論だった。

写真左から林・井上・鎌田・新居さん　　(K)

1998年10月9日第三種郵便物認可　　（毎月3回8の日発行）
2019年4月4日発行　　SSKU　　増刊通巻第6396号

あうん都の社会貢献大賞

日本の代表的事業所が受賞

愛知のまちなみ建築賞　わっぱの会

日本を代表する一般就労でも福祉的就労でもない第3の働き方を実践する社会的事業所が、東京都と愛知県で相次いで2018年度の表彰を受けた。

東京都の「共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」には、荒川区の企業組合あうんが選ばれた。その理由は、生活困窮者やシングルマザーや子ども食堂向けに地域住民と活動するフードバンクの活動が評価されている。

名古屋のNPO法人わっぱの会が北区大曽根団地に1年前開設した「ソーネおおぞね」は愛知まちなみ建築賞と愛知県環境優秀賞を受賞した。

「誰も置き去りにしない社会づくり」がSDGsの運動によって国際社会の合言葉になる中で、ずっとその前から、あうんがホームレスやシングルマザー、わっぱの会が障がい者の「共に」働く社会的事業所として活動してきたことが社会評価されている訳で、欠けているのは国の第3の働き方の無さである。

東京の「しげんカフェ」生活クラブとあうんで事業化

2017年5月にわくわくかんの総会で、講演会のテーマとなった「しげんカフェ」という事業が、東京でも少しずつ広がりを見せてきています。2018年3～5月に東京で、しげんカフェを愛知県津島市で創業された浅井さんをお呼びして、数回学習会が開催されたことに続き、2018年6月には東京・神奈川・千葉の生活クラブグループのメンバーが中心となって20数名で視察ツアーが行われました。その後10月から生活クラブ東京でしげんカフェを東京で事業化することについてプロジェクトが立ち上がり、2019年度から実験的にいくつかの現場で事業化していくという答申が出されました。

東京のメンバーに語るしげんカフェの浅井さん

具体的には、東村山市で障がいを持っている人も持っていない人も「ともに働く」事業を創っていこうとしているワーカーズコレクティブの「スーユンタン」という団体が、生活クラブの生協店舗で古紙・古着・空き缶などの資源の買い取りを今年6月頃から始めるというものです。現在生活クラブの店舗では、空きビンなどのリサイクルを既に行っており、その回収率は8割前後と大変高いそうです。来店する生協組合員も1日平均200名を超えており、多くの資源買い取り量が見込めると思われます。

東村山の生協店舗だけでなく八王子南の店舗でも、今年夏の改装工事に合わせてしげんカフェの事業を始めることが検討されています。また、生活クラブ東京の配送センターなどから排出される古紙をリサイクル業者に売却することで、生協本体においても古紙の資源化が検討されています。

荒川区でリサイクルショップなどを運営している企業組合あうんでも、今年4月から資源の買い取りを本格的に始めることとなっています。しげんカフェの事業のうち、カフェの開設は若干遅れそうですが、資源買い取りセンターを先行的に始めるのです。毎週月・木・金の週3回古紙・古着・空き缶をポイント制で買い取るのですが、そのうち週1日を「あじいる」という団体に委託し、現在生活保護を受けている野宿生活の経験者たちが、社会とのつながりを持ち、生きがいとして働ける場所を創り出していけないかと計画しています。

古紙や古着のリサイクル回収は、生活クラブなどの市民運動にとって、以前から取り組んできた課題ですが、行政回収や集団回収が定着してきたことや担い手の高齢化に伴い、最近では下火となっている印象があります。しげんカフェは、持続可能な事業という観点から循環型社会の形成に関わっていこうというものであり、生活クラブなどの市民運動にとっても新しさや魅力があるのだと思います。最近になって中国への古紙輸出が不振に陥り、古紙相場が低迷しているのはマイナス要因ですが、今後もしげんカフェの事業に対する共感の輪が神奈川や千葉の関東圏で広がっていくことになるでしょう。　(S.Y)

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2019 年 4 月 4 日発行 SSKU 増刊通巻第 6396 号

「ひびき」のメンバーＫ・Ｔさんからの＜詩＆エッセイ＞の投稿です。

投稿 K・T

「生」

舞い散る花を見て、「美しい」と感嘆しました。

舞い散る花を見て、「悲しい」と涙が出そうになりました。

舞い散る花を見て、「彼女の存在意義はあった」のだと思いました。

舞い散る花を見て、「私もああなりたい」と思いました。

生とは、舞い散る花のようなものだと思いました。

紅茶を飲みながら

♦ 私には、ちょっとした夢がある。小さな町の愛されている喫茶店で、紅茶を飲みながら芥川龍之介の本を読む、午後のひとときを過ごしたいと言う事だ。

♥ 紅茶には、きっと似合わないであろうと思う芥川の本を、熱い紅茶を一口飲み、本をゆっくりと読む。こんな午後を過ごしたい。

♠ しんしんと降る雨の中、色とりどりな傘をさして、行き急ぐ人、待ち合わせをする人、ゆっくりと雨を楽しみ歩く人を眺め、目線をテーブルに落とすと、まだ温かい紅茶がある。その紅茶を一口飲み、窓際をちらっと見て、ゆっくりと本を読む。こんな午後が過ごせたら最高だ。

♣ いつか何もかもが終わって、時間が出来たら小さな町の愛されている喫茶店を見つけて、あの空間で本を読もうと思う。

♦ 私には夢がある。芥川と共に紅茶を飲みながら過ごす午後のひととき。

就労支援センター北わくわくかん

登録者（2019年２月末）818 名
就職者 ３人（事務２名、清掃１名）

先月 ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子・池袋・飯田橋・東京障害者職業センター・北区社会福祉協議会・北区教育委員会・北区精神障害者支援施設連絡会・公益財団法人あすか山訪問介護ステーション・豊能障害者労働センター・NPO 法人娯楽会・共働事業所「かすみ荘」・一般社団法人フロンティア・企業組合ねっこの輪・NPO 法人労働と人権サポートセンター大阪・機関紙編集者クラブ・津久井やまゆり園事件を映画化する政策集団・障がい者問題資料センター・ステイラボジャパン合同会社・部落解放同盟神奈川県連合会横浜市協議会・東京ワーカーズコレクティブ協同組合・生活クラブ生活協同組合東京・企業組合あうん・ワーカーズコレクティブ協会・シャロームの家・NPO 法人太陽と緑の会等、お世話になりました。

グループホームわくわくかん

現在、男性 1 名・女性 3 名の方が入居中です。昨年 12 月に女性 1 名卒業されてから、いろんな方が見学にいらしてくださいました。既に体験を 3 回終えられた H さんは、お部屋の片付けが課題の一つでしたが、体験中に「床に物を置かない」と決めたその時から、キレイなお部屋を保つ事ができました。先日見学に来てくれた K さんはとてもしっかりされた方で、世話人の都合や要望をすぐにご理解いただき、アッという間に体験日が決まりました。

ご家族の問題を抱えた M さんは、周囲のアドバイスに耳を傾け、決してご自身の状況を他責する事の無い方です。頑張り屋でのんびり屋の H さん、世話人よりもしっかり者の K さん、澄んだ瞳が印象的なけなげ M さん、春の訪れと共に新しい出会いの始まりです。

▼編集後記▼

「障害者差別解消法」が 2015 年 4 月に施行されてから 3 年がたった。この法律によって「合理的配慮」という考え方が広がった。障害を理由とする差別の解消のために、職場や公共の場にいろんな器具や装置によってハンディキャップを少なくしていく施策が広がったことはよいことだった。もっと大事なことは、障がい者を特別扱いでなく、だれもが車いすの人や白杖をつく人など、身近に障がいのある友をもとうという流れだった。当然それは施設や養護学校のような隔離・分離型をなくして、地域社会の中で自立生活を当たり前にしていこうという動きを強めるはずだった。しかしこの年の 7 月に起こった津久井やまゆり園事件によって殺された重度障がい者は名前もない性別と年齢だけで呼ばれる逆行現象がおこった。社会に広がり始めた「社会的包摂」のうねりが止められた。箕面市で開かれた共同連交流会で「いらない命はどこにもない！」と神経筋疾患ネットワークの石地かおるさんが、着床前出生前診断という科学の名による受精卵の段階での選別・廃棄は、相模原事件と根っこは同じヘイトクライムと断じた。かくて「平成」は課題を残して終わる。

発行所 郵便番号 157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円（会費に含む）